

昨日、第98回全国高等学校野球選手権青森大会が開幕しましたね。そこで、今回は野球に関するお話です。

さて、全国高等学校野球選手権大会は全国中等学校優勝野球大会として大正4年（1915）に始まりました。青森市で初めて甲子園出場を果たしたのは、昭和2年（1927）の第13回大会に出場した青森県師範学校（校舎は浪打地区にありました）でした。この時、地方大会は青森県・秋田県・山形県から10校が参加して奥羽予選大会として行われ、青森市に隣接する浜館村松森字佃にあった球場が会場となりました。この球場は正式名称を「青松園佃運動場」といい、つくだウェザーパークの北側にありました。



佃運動場周辺

（「昭和二年 青森市勢一覽」、歴史資料室蔵）

佃運動場の建設には青森高等小学校（現浦町小学校）校長の山内元八や青森中学校の野球チーム「鉄腕倶楽部」の高坂専一・長内岩七郎、のちに青森テレビ会長となる中村菊三などが関わり、資金は川内町の菊池與太郎が用意しました。

山内は「あおり歴史トリビア」第49号で紹介した青森輪友会（自転車の普及と体育奨励を目的とした組織）の会長や、第208号で紹介した青森商工徒弟慰労運動会の審判長を務めるなど、青森市のスポーツ界で活躍した人物です。そして、資金面で協力した菊池は木材業界において活躍した実業家であり、川内町での野球グラウンド建設にも関わるなど、スポーツ振興に関心を持っていたようです。

佃運動場が建設されたのは、甲子園球場が建設されたのと同じ大正 13 年のことでした。運動場の建設計画は同年 5 月 1 日付の『東奥日報』で取り上げられますが、建設に向けた準備はその数か月前から進められていたようです。球場は 8 段のスタンドや選手の合宿所を備える計画で、「東北第一の大グラウンド」と紹介されました。その後、工事が進められ、7 月 12 日に竣工式が行われました。式典の後には青森鉄腕倶楽部、函館大洋倶楽部、仙台五城倶楽部の 3 チームによる開場記念試合が行われ、多くの観客が集まりました。

佃運動場は全国中等学校優勝野球大会の予選など様々な試合で使われましたが、昭和 8 年、沖館地区に青森球場（詳しくは「あおり歴史トリビア」第 147 号をご覧ください）が建設されると、青森球場が青森市を代表する野球場となりました。全国中等学校優勝野球大会の予選も昭和 10 年からは青森球場を会場に行われるようになりました。



佃運動場(昭和初期)

なお、佃運動場がいつ頃まで球場として使われていたのか、はっきりしたことはわかりませんが、戦後は住宅地となっています。

※今回の内容は『青森県高野連史』（昭和 47 年）、『青森県体育協会史』（平成元年）などを参考にしました。